

IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター 2021 年 12 月号

【トップニュース】

2022 年に向けて

私たちの多くにとって、2021 年は再び大きな挑戦、変化、そして喪失の年となった。COVID-19 のパンデミックは続いているが、パンデミックから生じる共通の課題を通じて、数え切れないほどの連帯、優しさ、相互支援、愛の行動を見てきた。私たちは、この 1 年を振り返りながら、新たな希望を持って 2022 年に向かっていく。

IBTA を代表して、2022 年が皆様にとって幸せで、安全で、健康的な年になることを祈念します。

英国国立医療技術評価機構 (NICE) が成人の原発性脳腫瘍および脳転移に関する品質基準を発表

英国国立医療技術評価機構 (NICE) はこのほど、英国国民保健サービス (NHS) による脳腫瘍患者への医療提供を改善するための新たな品質基準を発表した。この新しい品質基準は、成人 (16 歳以上) のあらゆるタイプの原発性脳腫瘍または脳転移の診断、モニタリング、管理を対象としている。一連の品質に関する声明では、以下の医療へのアクセス改善に言及している。脳腫瘍が疑われる成人患者の MRI 画像へのアクセス、患者の医療・社会的ケアの支援を調整する指名された医療従事者へのアクセス、(放射線検査で腫瘍コントラストの増強が認められ、高悪性度神経膠腫の疑いがあり、腫瘍の全切除が適切な) 成人の脳外科手術中の 5-アミノレブリン酸 (5-ALA) 使用へのアクセス、患者の治療の後遺症のリスクに関する評価と検討へのアクセス、成人の脳腫瘍患者の外来または入院による地域での神経リハビリへのアクセスである。[続きを読む](#) (論文全文)。

欧州がん機構が新しい重要な報告書「希望を現実のものに～転移がん患者の治療とケアに関する行動」を発表

欧州がん機構 (E.C.O.) が報告書「[希望を現実のものに～転移がん患者の治療とケアに関する行動](#)」を発表した。本報告書では、特別な [Community 365-転移がんに関するラウンドテーブルミーティング](#) で行われたプレゼンテーションと寄付について詳細に説明している。同ミーティングは、2021 年 10 月にバーチャルで開催され、IBTA 共同取締役の Kathy Oliver が欧州がん機構会長の Matti Aapro 医師と共同議長を務めた。

この会議では、主要な政策立案者、政治家、腫瘍学専門家、患者擁護団体が集まり、欧州のがん撲滅計画とがんに関するミッションの実施、および転移がんに関するその他の EU 政策の策定について検討した。特に、転移性の乳がん、前立腺がん、肺がんに関する政策の課題や、転移性がん分野におけるバイオマーカーと検査の可能性に焦点が当てられた。また、脳転移を有する非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者のアンメットニーズに関する新しい調査結果も発表された。ラウンドテーブルミーティングの報告書および記録や発表スライドは[こちら](#)。

欧州神経腫瘍学会 (EANO) が COVID-19 ワクチンに関する声明を発表

欧州神経腫瘍学会 (EANO) は、COVID-19 ワクチン接種の重要性に関する [声明](#) を発表した。同声明では、「欧州神経腫瘍学会 (EANO) は、すべての人々、特に医療従事者および神経系腫瘍患者に対して、SARS CoV-2 に対するワクチンを適時接種することを推奨します-できるだけ早く接種 (またはブースターショット) を受けましょう」と述べている。

オープンアクセス誌 Neuro-Oncology Advances 誌で脳転移と希少な中枢神経系(CNS)腫瘍に関する特集号を刊行

Neuro-Oncology Advances 誌の特集号 (Volume 3, Issue Supplement_5, November 2021) がオンラインで公開され、幅広い著名な研究者や臨床医が執筆した脳転移に関する 15 論文が掲載されている。全論文がオープンアクセスである。[続きを読む](#)。Neuro-Oncology 誌では「中枢神経系の腫瘍と疾患の進歩を促進するパラダイムとしての希少な中枢神経系腫瘍」という別の特集号が刊行された。この特集号には紹介記事があり、中枢神経系腫瘍の標的治療を開発するための前臨床モデル、DNA メチル化プロファイリング、希少な中枢神経系腫瘍の臨床試験の課題に関する総説論文が掲載されている。[続きを読む](#)。

世界保健機関(WHO)の小児腫瘍の新分類

[Cancer Discovery 誌](#)に掲載された Stefan M Pfister 医師らによる総説論文の主題は、間もなく発表される世界保健機関(WHO)の小児腫瘍分類である。小児および青年期に最も多く診断される腫瘍には、脳腫瘍および中枢神経系腫瘍、白血病、リンパ腫、肉腫、神経芽腫、網膜芽細胞腫、肝腫瘍、腎腫瘍、胚細胞腫瘍等の希少な腫瘍が含まれる。この総説論文では、分類システムが、顕微鏡検査で得られる情報に基づくものから、腫瘍組織の分子解析に基づくものへと急速に移行していることに焦点を当てている。「小児腫瘍は、腫瘍の種類、病因、生物学、治療法の点で成人腫瘍と根本的に異なります。したがって、小児の年齢に焦点を当てた分類は重要なステップで、医師が最も精密で正確な診断に基づいて最良の治療法を特定することを可能にします」と、筆頭著者の Pfister 医師と述べている。[続きを読む](#)。

「希少疾病患者とその家族の課題への取り組み」に関する国連決議が初めて採択

[Rare Diseases International \(RDI\)](#)、NGO Committee for Rare Diseases、[EURORDIS-Rare Diseases Europe](#) は、国連総会で、世界で 3 億人を超える希少疾病有病者 (persons living with a rare disease; PLWRD) とその家族を認める決議が正式に採択されたと発表した。この決議は、無差別の重要性に焦点を当て、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の主要な柱を前進させるもので、教育や適正な仕事へのアクセス、貧困の削減、ジェンダー不平等への取り組み、社会参加支援等が含まれている。スペイン、ブラジル、カタールが提起し、54 カ国が共同提案したこの決議は、国連総会に参加する 193 カ国すべての支持を得て、全会一致で採択された。この決議は重要な転換点であり、脳腫瘍と診断された患者を含む希少疾患コミュニティを国連の議題としてしっかりと位置づけるものである。[続きを読む](#)。

IBTA ポッドキャストシリーズ「脳腫瘍と私」

IBTA はこのたび、新しいポッドキャストシリーズ「脳腫瘍と私～感動、個人の物語、そして希望の旅～」の 2 つのエピソードを開始した。このシリーズでは、神経腫瘍学の分野で働く人々、患者とその家族を支援する人々、そして脳腫瘍を宣告された人々に会う。脳腫瘍がこれらの人々に、どのように影響したかを紹介する、そして、しばしば驚くほど影響している。

「脳腫瘍と私」は Apple ポッドキャスト、Spotify、CastBox、Breaker、Anchor および IBTA のウェブサイト (www.theibta.org/podcast) で配信されている。「脳腫瘍と私」は、IBTA のために Graham Seaman Media 社が制作した。このシリーズの第 3 回のポッドキャストエピソードは、2022 年 1 月末に配信される予定である。

クリスマスシーズンには世界の脳腫瘍コミュニティの創造的な作品を集めた IBTA 初のバーチャル展覧会へ

クリスマスシーズンにインスピレーションを与えてくれる展覧会を探しているなら、IBTA が開催する国際的な脳腫瘍コミュニティからの創造的な作品を集めたバーチャル展覧会「Brilliance!(優れた才能)」をご覧になってはいかがでしょうか。世界中の脳腫瘍患者、その家族、医療関係者から、3点までの作品と、その作品について、またご自身が脳腫瘍によって受けた影響についての短い説明文を募集した。

その結果、12カ国から70点以上の素晴らしい作品が集まった。これらの作品は、国際的な脳腫瘍コミュニティの独自性に光を当て、幅広い芸術メディア、文化、地域を反映している。「Brilliance!」展のカタログはオンラインで閲覧することができ、国際的な脳腫瘍コミュニティの決意と回復力に敬意を表し、すべての人に希望とインスピレーションを与える象徴として、無期限に公開される予定である。

IBTA の「Brilliance!」展のバーチャル展覧会カタログは[こちら](#)。応募作品をじっくり鑑賞するには、このカタログを「フルスクリーンモード」でご覧ください。

計画から行動へ-IBTA とがんコミュニティは、欧州の「がん撲滅計画」の実施に関する提言を推進

先日、ブリュッセルで毎年開催されている欧州がんサミットで、欧州のがん関係者が一堂に会した。「計画から行動へ」というテーマのもと、このイベント(ハイブリッド会議)では、今年発表された「欧州がん撲滅計画」と「EU がん研究ミッション」のイニシアチブをいかにして実践的な行動に移すかが焦点となった。

IBTA 取締役の Kathy Oliver と Theresa Wiseman 教授が共同議長を務めたこのサミットでは、欧州のがんコミュニティから寄せられた主要な合意勧告を組み込んだ宣言文が作成された。これには、以下のような助言が含まれている。

(1)がん検診と早期発見に関する EU 理事会勧告を策定し、すべての腫瘍型においてがんの早期発見を支援する EU アジェンダを推進する。(2)GDPR(一般データ保護規則)により生じる障壁というよくある不満に取り組み、EU データの相互運用性に関する確固たる目標を設定し、一般市民と医療従事者のデジタルリテラシーを高める行動をとることによって、がん治療へのデジタルテクノロジーの採用を加速させる。(3)EU レベルの新しいポストパンデミック健康緊急計画体制における労働力マッピングの策定等、腫瘍分野の継続的な労働力不足に対処する。(4)欧州全域のがん治療において、年齢、人種、性別、性的指向、社会的疎外等の社会決定要因による不平等と戦っていくという大きなコミットメントを表明する。本イベントの全レポートは[こちら](#)。セッションの記録や宣言文等、サミットに関する詳細情報は[こちら](#)。

【治療関連ニュース】

原発性脳腫瘍と COVID-19:オランダ腫瘍学 COVID-19 コンソーシアムからの報告

オランダのがん専門医の共同研究として、がん患者における COVID-19 の致命的転帰の危険因子を特定する全国規模の研究が実施され、学術雑誌 Neuro-Oncology 誌に掲載された。

オランダ腫瘍学 COVID-19 コンソーシアム(DOCC)登録システムは、国内45病院の患者を対象として、抗がん治療が COVID-19 の経過に及ぼす影響を評価する目的で設立された。脳腫瘍患者に対する COVID-19 の影響を調べるため、2020年3月27日から2021年2月4日までの間に原発性脳腫瘍と診断された患者30名のサブセットを DOCC 登録システムに登録した。このグループの相当数の患者が入院し、脳腫瘍コホートの63%が COVID-19 の重篤な経過を経験した。このうち、50%が入院を必要とし、13%が死亡者として記録された。著者らは次のように書いている。「この登録で、全身性抗がん治療が COVID-19 の転帰に悪影響を及ぼすという兆候はみられませんでした」。

そして、このグループの入院者数はかなり多かったものの、この登録結果は、「腫瘍治療の使用は原発性脳腫瘍患者では比較的安全と思われるので、延期すべきではない」ことを示している。[続きを読む](#) (論文全文)。

英国オプチューン(Optune)サポートグループ会議

オプチューン(腫瘍治療電場療法; TT フィールド; TTF)の Zoom ベースのサポートグループが英国に設立された。このグループは、Matt Williams 医師と上級脳腫瘍専門看護師である Shivani Soni が司会を務め、英国在住のオプチューンを使用している脳腫瘍患者とその介護者の方、およびコンサルタント、専門看護師、製品サポートスペシャリスト等が参加している。次回の Zoom オプチューンサポートグループミーティングは、2022 年 1 月 28 日(金)午前 10 時~午前 11 時(英国時間)に開催される予定である。オプチューンを使用している英国在住の脳腫瘍患者の方で、1 月に開催されるこのバーチャルサポートグループミーティングに参加を希望される方は、チャリングクロス病院の Sarah Lazare 氏までメール(Sarah.lazare@nhs.net)にてご連絡ください。Williams 医師は次のように述べている。「このグループは、民間および国民保健サービス(NHS)のすべての患者さんに開かれています。患者さんがオプチューンの機器を管理できるようにすることにより、装着時間を増やし、副作用を減らすことに重点を置いています」。このグループの詳細は、[こちら](#)。

髄膜腫における放射線外科手術と慎重な経過観察との比較

[Journal of Neuro-Oncology](#) 誌に掲載された国際研究(現在「プレプリント」として掲載され、査読中)によると、無症状の頭蓋底髄膜腫において、初回治療として定位放射線手術(SRS)を行うことは、「慎重な経過観察」の標準治療よりも疾患コントロールを改善する可能性があることが報告されている。

研究者らは、417 名の髄膜腫患者の診断画像と臨床転帰を比較することにより、定位放射線手術(SRS)が標準的アプローチよりも腫瘍をコントロールすることが可能で、神経学的合併症のリスクを高めることもないと結論付けた。慎重な経過観察が初期対応として選択された症例においても、経過観察中に腫瘍の増大が見られた場合には定位放射線手術(SRS)を推奨すべきことを示唆するに十分な証拠であると、本研究の著者らは述べている。[続きを読む](#)。

再発膠芽腫脳腫瘍患者の中には他の患者よりも免疫療法によく反応するサブセットがある可能性を示唆する研究

[Nature Cancer](#) 誌に掲載された新しい研究により、再発膠芽腫患者の中には、他の患者よりも免疫療法が有効な患者がいる可能性があることが明らかになった。

研究者らは、腫瘍でリン酸化 ERK と呼ばれるバイオマーカーが認められる再発膠芽腫患者は、免疫療法の一つである PD1 阻害剤による治療に対する反応性が良好な可能性が高いことを発見した。研究チームは、個々の患者の腫瘍サンプルを顕微鏡で観察して ERK のリン酸化を診断することで、免疫療法の治療効果を予測することができた。研究チームが膠芽腫患者を対象にこの方法を検証する臨床試験を立ち上げたいと考えていることが報告されている。[続きを読む](#)。

先天性脊髄膠芽腫が遺伝子シーケンシングに基づく治療により完全退縮した事例を発表

先天性脊髄膠芽腫と診断された患者が、ゲノムシーケンシングに基づいた治療プロトコルで完全寛解を達成した事例が The Lancet 誌に掲載された。出生後、女兒の MRI で脊椎の高悪性度腫瘍が発見された。この腫瘍の生検により、WHO グレード 4 の先天性脊髄膠芽腫と診断された。

腫瘍サンプルで次世代シーケンシング(NGS)と呼ばれる強力な遺伝子シーケンシングを行い、ニューロトロフィン・ト

ロポミオシン受容体キナーゼ(NTRK)1 遺伝子を含む融合遺伝子異常が認められた。これらの遺伝子は TRK タンパク質を作るもので、異常があるとさまざまながんを引き起こす可能性がある。この患者には、化学療法と経口 TRK 阻害剤であるラトレクチニブを併用したが、女兒の年齢が低かったため、非常に低い用量で投与した。この論文によると、彼女は治療によく耐え、TRK 阻害剤と 2 種類の化学療法剤、カルボプラチンとエトポシドを併用し、8 週間後に腫瘍は完全退縮した。治療開始後 17 カ月を経て、TRK 阻害剤単独での治療を継続し、腫瘍の再発は認められなかったと報告されている。化学療法のみで治療した先天性膠芽腫ではこのような改善はあまり認められないことから、病理組織学的所見とシーケンスデータに基づく TRK 阻害剤の使用により、この患者の腫瘍が良好な反応を示したのだろうと、研究者らは指摘している。[続きを読む](#) (論文全文の閲覧には購読／購入が必要)。症例発表動画のオンラインでの閲覧は[こちら](#)。

【研究ニュース】

喘息患者の脳腫瘍のリスクが低い理由についての研究

喘息患者が、喘息を持たない人に比べて脳腫瘍を発症しにくいとされる理由についての前臨床研究が [Nature Communications 誌](#) に発表された。研究者らは、この作用機序は、身体の適応免疫反応に関与する免疫細胞の一種である T 細胞の挙動を中心に展開されると推論している。マウスを使った実験では、喘息を発症すると T 細胞が活性化し、肺の炎症を誘発するような挙動を示すと同時に、腫瘍の増殖を防ぐデコリンというタンパク質が活性化し、DNA の転写、免疫反応、細胞の生存を制御する NF- κ B というタンパク質複合体を阻害することによって、脳腫瘍の増殖を防ぐ可能性を発見している。

本研究の著者らは、これらの知見は、ヒト脳腫瘍患者の T 細胞を再プログラミングして、喘息患者にみられる T 細胞のような働きをするようにすれば、脳腫瘍の治療に対する新しいアプローチを切り開くことができることを示唆しているとしている。[続きを読む](#)。

再発髄膜腫の研究により、トラベクテジンは生存率を向上させないことが判明

非良性髄膜腫が一般的な標準治療を行った後に再発した場合、現在のところ確立された全身療法はない。WHO グレード 2 および 3 の髄膜腫再発患者 90 名を対象とする無作為化 [第 2 相臨床試験](#) の結果が [Neuro-Oncology 誌](#) に掲載された。抗がん剤トラベクテジンが標準治療と比較して無増悪生存期間と全生存期間のいずれにも有意な改善をもたらさず、さらに高い毒性と関連していたことが明らかにされた。[続きを読む](#) (論文全文の閲覧には購読／購入が必要)。

WHO グレード 2 および 3 の成人神経膠腫の健康関連 QOL への長期的影響

[Neuro-Oncology Practice 誌](#) に掲載された論文では、成人神経膠腫の診断が長期的な健康関連 QOL (HRQOL) に及ぼす影響について浮き彫りにされている。この研究の著者は、これらの影響は「ネガティブな感情的／心理的／認知的変化」、「疲労、けいれん発作による日常活動の制限」、および「緊迫した社会的関係や経済的問題などの社会的課題」と説明している。本研究の著者らは「このシステムティックレビューから得られる知見は、長期サバイバーシップにおいて患者の長期的な健康関連 QOL (HRQOL) を改善する取り組みの基礎となる」と提言している。[続きを読む](#) (論文全文)。

偶然診断された低悪性度神経膠腫の早期手術は生存率の向上につながるとの研究結果

Neuro-Oncology 誌に掲載された研究は、複数の施設で実施され、偶然発見された低悪性度神経膠腫患者 267 名の転帰を解析したものである。その結果、術前の腫瘍が多いほど全生存率が低く、早期手術は生存率の向上と再発率の低下を予測させることが示された。また、術前の腫瘍が大きいほど切除可能な腫瘍量が少なかった。したがって、早期手術は局所再発を減少させ、低悪性度神経膠腫が大きいほど全生存率が低くなり、切除度が小さくなることを、本研究は強調している。

著者らは次のように結論付けている。「この多施設共同研究[...]は、これらの病変に対する早期手術を支持するエビデンスを強化するものです」。[続きを読む](#)(論文全文の閲覧には購読／購入が必要)。

小児脳腫瘍の起源を解明

「発生段階小脳における小児脳腫瘍起源の探索」に関する論文のプレプリント版(査読なし)が、生物学のプレプリントサーバーbioRxiv に掲載された。研究者らは、ヒトの脳の発生初期の細胞に関する膨大な遺伝子データの「アトラス」を用いて、さまざまな小児小脳の脳腫瘍が発生する元の細胞の種類を同定した。その結果、SHH、グループ 3、グループ 4 の髄芽腫はすべて同じ顆粒細胞／単極ブラシ細胞系に由来し、毛様細胞性星細胞腫はオリゴデンドロサイト細胞系に由来することが判明した。これらの知見は、将来の治療研究の方向付けに役立つ可能性があると著者らは書いている。[続きを読む](#)(論文全文)。

膠芽腫の生存率の改善は 2011 年以降停滞しているとの研究結果

The Neurologist 誌に掲載された総説論文では、2000 年から 2017 年までの間に、膠芽腫の生存にプラスの影響を与える治療法を見つける研究がどの程度進んだかを評価している。

Surveillance, Epidemiology and End Results(SEER)プログラムからプールされたデータを使用して、研究者は 17 年間にわたる合計 38,352 人の成人膠芽腫患者の生存指標を比較した。著者らは、テモゾロミドの登場、ベバシズマブの導入、手術手技の改善に合わせて、2000 年から 2011 年にかけての膠芽腫生存率が徐々に改善した期間の後、生存率はその後「頭打ちになった」と結論付けている。本研究では、2011 年以降のその後の進歩が、2017 年現在、集団レベルでの生存率の改善にまだ結びついていないことを説明している。[続きを読む](#)(論文全文の閲覧には購読／購入が必要)。

再発膠芽腫に対する veledimex とニボルマブの併用療法を試験的に実施

veledimex(VDX) 遺伝子治療とモノクローナル抗体治療薬ニボルマブを含む新しい併用免疫療法プロトコルの多施設共同 [第 1 相試験](#) の結果、21 名の再発膠芽腫患者において、本治療が安全かつ忍容性に優れていることが確認された。この併用免疫療法は、複数の標的を設定することで、がん細胞のエスケープ機構に圧力をかけ、がん細胞が免疫応答を回避しにくくすることを可能にするアプローチである。

本試験の結果、この併用免疫療法プロトコルは、患者にとって安全かつ忍容性が高いことが結論付けられた。この併用療法の研究は、現在進行中の免疫チェックポイント阻害剤と IL-12 遺伝子治療を併用した [第 2 相臨床試験](#) で継続される予定である。[続きを読む](#)(論文全文の閲覧には購読／購入が必要)。

HIV 治療薬の低悪性度脳腫瘍治療への再利用の可能性に関する論文

[Cancer Research](#) 誌に掲載された論文では、AIDS や HIV の治療に用いられる薬剤が、ある種の低悪性度脳腫瘍の治療にも有効である可能性があるとの見通しが示されている。研究者らは、腫瘍の発生において DNA の特定の部

分が果たす役割について調査した。DNA の特定の部分(内在性レトロウイルス HERV-K と命名)は、霊長類の祖先に感染した古代の感染症の「遺物」であり、現在ではヒトの DNA の安定した要素になっている。研究チームは、患者の髄膜腫と神経鞘腫の細胞に、高濃度の HERV-K タンパク質が存在することを明らかにした。

これらのタンパク質を標的とする薬剤が多数同定され、中でもレトロウイルスのプロテアーゼ阻害剤であるリトナビル、アタザナビル、ロピナビルは、米国で HIV/AIDS の治療薬として既に承認されており、英国でも入手可能である。[続きを読む](#)(ポーツマス大学プレスリリース)。

希少脳腫瘍を対象とした米国 NCI-CONNECT 臨床試験

さまざまな観察研究、治療試験、成人の希少な中枢神経系(CNS)腫瘍患者を対象としたオンライン研究についての情報が掲載されている NCI-CONNECT ウェブサイトは[こちら](#)。

【国際的脳腫瘍コミュニティのニュース】

上衣腫の要点-上衣腫患者およびその介護者向けの教育用動画シリーズ

上衣腫脳腫瘍に関する教育情報の主要なリソースである Collaborative Ependymoma Research Network (CERN) は、新しい教育動画シリーズ「上衣腫の要点」を後援している。

この動画シリーズは、上衣腫脳腫瘍に関する信頼できる情報を伝える目的で、支援団体や専門医療従事者の協力のもと、教育目的で企画されたコミュニティ主導の取り組みである。シリーズの各動画は 30~40 分の長さで、家族や介護者のための重要なポイントを Q&A 形式で紹介している。今後の動画は CERN 財団のウェブサイトに掲載されている。閲覧は[こちら](#)。

デンマーク脳腫瘍協会が脳腫瘍のある生活に関する短編動画シリーズを公開~英語にも翻訳

[デンマーク脳腫瘍協会\(HjernetumorForeningen\)](#)は、脳腫瘍と診断され、脳腫瘍と共に生きていくことに関する 9 本の短編動画を制作した。脳腫瘍を患う女性のストーリーを追うことで、家族、友人、専門家が脳腫瘍と共に生きることをより深く理解できるようになることが期待されている。フィルムは、患者、親族、医療従事者、演劇学校 Ophelia の緊密な協力のもと制作された。このプロジェクトは、デンマーク脳腫瘍協会、A. P. Møller Support Fund、デンマークがん協会、デンマーク保健省から資金援助を受けている。デンマーク語版、および英語版の動画は、[こちら](#)。

【企業ニュース】

Moleculin 社が膠芽腫の治療薬 WP1122 の第 1 相試験開始の米国食品医薬品局(FDA)承認を取得

製薬会社 Moleculin 社は、新薬 WP1122 の膠芽腫に対する安全性と有効性を調査する第 1 相用量漸増試験を進めるための承認を得た。同社は、WP1122 が抗ウイルス薬およびがん治療薬としての可能性を持っていると考えている。Moleculin 社は最近、COVID-19 患者を対象に、将来の試験を容易にする目的で、英国で健康なボランティアを対象とした WP1122 の第 1a 相臨床試験を開始する計画を発表している。この発表の詳細は[こちら](#)(企業プレスリリース)。

Kazia 社が初発膠芽腫を対象としたパクスアリシブの第 2 相臨床試験の良好な最終データを発表

Kazia Therapeutics 社はこのほど、パクスアリシブによる初回治療の第 2 相臨床試験における安全性と有効性の良好

な結果を発表した。この初回治療は、膠芽腫患者を対象とし、テモゾロミドに対する耐性を克服するためのものである。本試験では、初発膠芽腫と診断され、化学療法剤テモゾロミドに対する耐性を示す遺伝子指標である MGMT プロモーターの非メチル化状態を有する患者 30 人を対象とした。研究者らは、全生存期間と無増悪生存期間のデータも調べた。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。

高悪性度神経膠腫の治療薬として NUV-422 を米国食品医薬品局 (FDA) が優先審査薬指定

米国食品医薬品局 (FDA) は、サイクリン依存性キナーゼ (CDK) 阻害剤である NUV-422 を膠芽腫 (GBM) を含む高悪性度神経膠腫患者の治療薬として優先審査薬指定した。現在、NUV-422 の第 1/2 相単剤療法試験が進行中である。優先審査薬指定は、新薬をより早く患者に届けるために、アンメットニーズのある患者集団の重度の症状を治療する薬剤の開発を促進し、審査を迅速化するものである。[続きを読む](#) (企業プレスリリース)。

【イベント／学会ニュース(抜粋)】 ※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

現在の COVID-19 パンデミックの影響で、世界中の多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。私たちはこうしたニュースに対応するよう最善を尽くしているが、予定されている会議の状況に関しては、必ず会議主催者に確認のこと。

2022 年 1 月

[第 6 回欧州腫瘍学学校\(ESO\)欧州臨床腫瘍学会 \(ESMO\) 欧州希少癌 \(RCE\) 希少固形癌に臨床アップデート](#)

2021 年 12 月 16 日～ 事前収録セッション: 2022 年 1 月 29 日-30 日 オンライン

2022 年 2 月

[SNOLA 2022: 脳腫瘍学の橋渡し研究から将来の方向性まで](#)

2022 年 2 月 11 日-12 日 オンライン

2022 年 3 月

[第 6 回世界連合神経腫瘍学会 \(WFNOS\) 総会 \(4 年に 1 回開催\)・第 17 回アジア脳腫瘍学会\(ASNO\)](#)

2022 年 3 月 24 日-27 日 韓国 ソウル

2022 年 5 月

[スカンジナビア神経腫瘍学会\(SNOG\)フィンランド脳腫瘍研究会議\(FIBTRA\)合同シンポジウム](#)

2022 年 5 月 19 日-21 日 フィンランド タンペレ

[脳腫瘍ミーティング 2022](#)

2022 年 5 月 19 日-20 日 ドイツ ベルリン 要旨登録は[こちら](#)から(22 年 2 月 21 日締め切り)

2022 年 6 月

[SIOP 欧州脳腫瘍グループミーティング](#)

2022 年 6 月 11 日-12 日 ドイツ ハンブルグ

2021年または2022年に開催される脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議(バーチャルか対面かは問わず)を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.org まで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTA ウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

翻訳: 会津 麻美、伊藤 彰/JAMT(ジャムティ)翻訳チーム

監修: 夏目 敦至/名古屋大学未来社会創造機構・特任教授

河村病院・脳神経外科・部長

IBTA(国際脳腫瘍ネットワーク)について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク(The International Brain Tumour Alliance:IBTA)は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibta.org をご覧ください。
ご意見をお聞かせください。IBTA コミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先: chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

(免責事項)国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)は、e-News(あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されたニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等)に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。(スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください)。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。